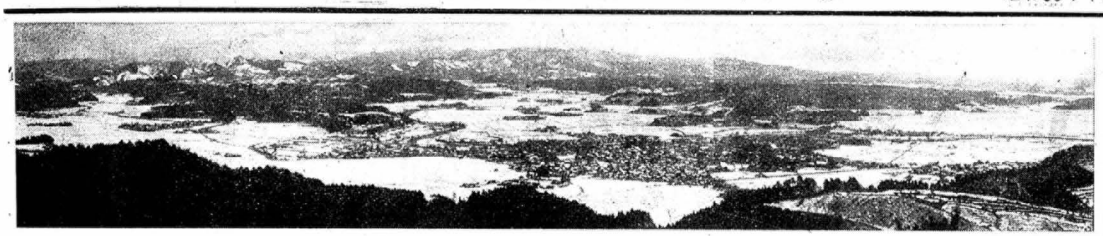


五城目町広報

賀正

元旦

五城目町役場

上小阿仁～五城目 待望のバス開通へ

六月処女運行を目標に推進

五城目町と北秋の上小阿仁村を結ぶ県道秋田、大館線にいよいよ本年六月ごろ、待望のバス開通をみる運びとなった。

この路線へのバス乗入れは長い間両町村や地域住民が念願して、涙ぐましいまでの努力を続けてきたが、南秋側は高畑まで、北秋側は南沢が終点とされ、その間約七粁の県道は毎年雪どけ頃の崩落土のため、郡境附近の工事が進まずバス開通を阻んでいたが、このほど一挙にこの問題を解決する明るい見通しがつくに至った。

旧ろう十二月四日、五城目町長、上小阿仁村長が主催となって、県議会、県主脳部をはじめ両町村所在の関係官庁の参加を得て現地調査を行った結果、この路線が両地域発展のために極めて重要であること、またバス開通の可能であることなどを確認したうえ、協議会場を五城目町に移し、今後の対策と運動方針について約三時間にわたって対策を協議した。

崩落土防止工事が先決

席上、東村県土木部長は、本日の現地調査の結果、現在すでに小型自動車とトラックの通行は可能であり、南秋側の一部を崩落土防止の工事をすることによって、大型自動車の通行も充分可能と思われる。県としても今後補強工事に金力を注ぐから、五城目、上小阿仁の地元両町村も一致協力して実現に努力していただきたい。

と力強い発言があり、ついで畠山上小阿仁村長は、本路線の開通については、上小阿仁住民に計り知れない福祉をもたらすものであり、県都秋田市にも五城目経由で約三時間で出市することができまたいまゝで秋田市から見た場合の三角形の頂点と形容された汚名も返上でき、秋田、五城目を通じて村の産業、文化に一大革命をもたらすものであります。

ことに本路線の開通については、私の父も終生の願いとして完成に努力したが、遂に生存中に完成を見ることができなかった。いま息子の私が亡父の意を継いで上小阿仁全村民の代表として、この完成に努めるとともに五城目町長をはじめ県ならびに関係官庁の特段の御協力をお願いし、住民の年来の願望と夢を実現いたしたい。

との心をうたれる挨拶をされた

六月にはバスの処女運行を

終りに加賀谷五城目町長は、本路線の開通はすべての面にプラスになり、ことに無限の宝庫といわれる森林資源をもつ北秋と南秋の直結、バスの運行による文化の交流、またいままで一泊でなければ行くことが出来なかった阿仁部が「呼べば答える」距離に近づくわけであります。従って本路線開通実現のため本年五月中完成、六月一日バスの処女運行を目標としておのおのその御協力をお願いし、住民の年来の願望と夢を実現いたしたい。

【写真】上、上小阿仁村へついた視察団
下、五城目で開いた協議会

目、上小阿仁両警察署長、秋田、北秋両土木事務所長、中央交通、秋北バス各代表、加賀谷五城目町長、畠山上小阿仁村長、外両町主脳部

消防功労者晴れの表彰

受賞者は県内一の多数

巨例の五城目町消防出初式は一月六日午前十時半から五城目小学校体操場で挙行されるが、永年勤続の消防職員並びに団員には勤続功労章が授与され、また火災現場で献身的に努力された人や、平常でも特に功績を挙げられた一般功労者に対しては、それぞれ関係機関の長より晴れの表彰状が贈呈されることとなった。

当日の受賞者はつぎのとおり

◇秋田県知事有功章表彰

馬場目副地区隊長佐藤利右工門
富津内副地区隊長　畠山　礼治
大川副地区隊長　金子光太郎
富津内第二分団長　伊藤敏一郎
大川第二分団長　千田　榮治

◇秋田県消防協会長功労表彰

内川副地区隊長　工藤善二郎
馬場目第三分団長右川茂右工門
馬場目消防本部　小倉　顧一
五城目消防本部　小倉　顧一

◇男鹿南秋支部長功労表彰

五城目第二副分団長佐藤鉄太郎
〃　第三分団長　斉藤庄之助
〃　第四分団長　千田　幸一
富津内地区隊第一分団長　椎名　恭蔵

以上は消防団（職）員である。

一段光彩を放つ

一般功労者

消防出初式は一月六日午前十時半から五城目小学校体操場で挙行されるが、永年勤続の消防職員並びに団員には勤続功労章が授与され、また火災現場で献身的に努力された人や、平常でも特に功績を挙げられた一般功労者に対しては、それぞれ関係機関の長より晴れの表彰状が贈呈されることとなった。

（畚水池敷地宅地五坪提供）
大川谷地中部落
馬場目水沢部落
（ポンプ置場一棟並敷地五坪提供）
内川黒土部落
（畚水槽敷地四坪提供）
馬川小学校児童会
杉沢小学校児童会
大川小学校児童会
（永年にわたる警火運動）

◇五城目町長表彰

五城目運越　斉藤新藏
〃　本間与吉
（運越火災の協力功労者）
富津内脇村　石川みつ
（子供弄火早期発見消火）

三十年以上の勤続功労者

◇秋田県知事表彰

大川地区隊長　八柳兼藏
五城目町消防本部　小倉順一

◇同上二十年以上勤続功労者

内川地区隊長　畑沢一視
大川第一分団長　浅野長四郎
〃　班長　八柳久一
内川第二分団班長　石井松之助
五城目第四消防員　工藤一郎

◇十年以上県消防協会長表彰

五城目消防署司令補　一関勝己以下十二名

◇七年以上男鹿南秋支部長表彰

五城目消防署消防士　小林繁雄以下十二名

◇五年以上湖東分会長表彰

五城目第一分団消防員　原田要司以下十一名

◇秋田県知事功労表彰

五城目町畑町荒川要悦君
（五校火災の早期発見と連絡並に消火に協力）

◇三年以上五城目町長表彰

馬場目第一分団消防員　原管茂吉以下十一名

税金は町金庫へ!!

金庫ゝは、町のあらゆる現金の出納事務を行うところで、秋田銀行五城目支店がその仕事をやって居ります。

出納事務の正確と、安全を図る上から現金出納に熟練した銀行などに取扱はせるのが金庫制度の目的です。

したがって町の税金や、その他一切の収入、支出に関する現金は、秋田銀行五城目支店が、取扱う建前となっていますから

わざわざ役場までおいでならなくても納付書を持って税金や使用料、手数料は全部銀行へ納めて下さい。

役場へおさめに来て頂いても役場ではその日の中に、整理して銀行へ廻し翌日又銀行から役場へ報告することになりますので二重に手数がかかることになります。

これから役場へおさめる現金は是非秋田銀行五城目支店（五城目町金庫）へ御願い致します

（収入役室）

元旦の無火災祈願

元旦の早朝、消防本部と消防署の職員が鎮守の森に勢揃いし富泉神官の司祭で、昭和三十六年一年間の無火災を祈念した。

無火災モデル町に指定されている五城目町で、今年も一件の火災発生のないように、町民一人残らず協力されるように、町内の安全が保たれるようにと厳かに祈願された。

終って加賀谷消防長を先頭に獅町内を警戒巡視した。

みんな明るいお正月を

五城目町社会福祉協議会は明るくたのしい正月を迎えることができるよう才覚たすけあい運動を展開し、生活に困る人、病気の人、施設にいる人、恵まれない子供たち、病を他郷で療養する人などのため義捐金品を受け入れ効果的に左の通り贈呈しました。

五城目婦人会役員及び地区民生児童委員など、地域から寄あつた運動による義捐金品は、現金や古衣料品、主食など相当数集まりましたので、協力団体代表者の立会いのうえでそれぞれ適宜に配分し感謝されました。

また、皆さんの御協力で完遂した共同募金の配分金も全地区の生活に困っている三八世帯に、正月用として物品給与をしました。

秋田国体を 町民総参加で迎えましょう！

昭和36年　10月8日～13日－レスリング競技　五城目町

第十六回国体を 町民総参加で迎えよう

国体実行委員会発足

いよ／＼本年十月に迫つた秋田県国体開催に伴ないレスリング競技の開催会場地である五城目町は、本大会の受入れ並びに運営の万全を期するため、昨年十二月十七日五城目町役場第一会議室に関係者二〇名参集の下に第十六回国民体育大会五城目町実行委員会の設立総会を開催、万場一致をもつて議案を可決し来るべき国体の運営に意欲的な活動を開始した。

第十六回秋田県国体は中秋十月八日より十三日まで六日間に亘り県内十七会場地において、それ／＼世紀のスポーツ祭典を繰ひろげるものであるが、当町においても昭和三十四年夏開催の第六回全国高校レスリング大会以来、全町民に馳染みの深いレスリング競技を行ない国体に対する県民総参加の熱意を実践によつて示さんとするものである。

実行委員会の設立総会は町内各種機関代表、各種団体の長、学識経験者、秋田県アマチュアレスリング協会員、その他大会開催に関係ある人々の参集を求め、始めに加賀谷町長の国体参加に対する力強い意欲的な挨拶があり、続いて県アマレス協会長小玉正己氏より高校レスリング開催時における全町民の温かい支援に対する深い感謝と、引続いて行われる国体レスリング競技に対する今後の理解と協力方について懇請の挨拶があり、引続いて議事に入つた。議事はその運営上仮議長に渡辺道蔵氏を選出し議長より左の二件の議案を提出した。

第一号議案

実行委員会の組織について、明年秋開催の第十六回国民体育大会の受入れ並びに運営の万全を期するため五城目町実行委員会を組織する。

第二号議案

実行委員会会則の制定について

第十六回国民体育大会五城目町実行委員会の会則を次のとおり制定するものとする。

（会則案省略）

（会則案省略）

議案朗読後直ちに賛疑に入つたが万場一致をもつて原案を可決し、同日附をもつて本会則が施行されることになつた。

ついで大会長となつた加賀谷町長より元気一ぱいの就任挨拶があり、更に会長から副会長顧問、参与、監事、委員、常任委員のそれぞれに亘つて委嘱状が授され最後に国体実行委員会事務局長に小林教育長を任命する旨の報告があつて盛況裡に総会を終了した。

総会終了後文教委員長荒川要市郎氏より第十五回秋田県国体の視察談がユーモアたつぷりに行われて万場を爆笑させ懇親会では高校レスリング大会当時の回想談に花を咲かせ、和気あいあいの中に来るべき国体への協力を力強く誓いあつた。

宿泊は民泊が殆んど

国体レスリングが開催される時に当りもつとも重要な課題は選手役員団の宿泊の件である。これはひとりわが町の問題のみでなく、全県的な傾向であるが、旅館の絶対数が不足のため勢い民泊に頼る以外道がない状態である。幸い当町においては高校大会の折、町民有志の犠牲的な協力により民泊に多大の成功を収めた実績をもつているが、国体レスリング競技に来町する役員選手団は四九〇名と推定されるこの外報道関係者、視察団、近県應援団等を合せると約五五〇名近いお客さんが一挙に当町に宿泊することになり、これに対して町内旅館六軒の収容力は一六〇人が精一ぱいと言うところで残り三九〇人は高校大会時同様民家宿泊をお願いする結果となる。高校大会当時は町内四十一軒に三六一人が民泊しているので、当時の貴重な体験を活かし万全の措置を講ずる決意である。尚今回の国体に際しては町内割烹料理店に宿泊の引受け方を懇請する予定であつたが、国体事務局より県公安条例の規定に基き宿泊利用の禁止を指示されたので、誠に残念ながら見送ることになつた。折角積極的な協力方を示して頂いた料飲組合の方々には誠に申訳ない仕儀となりこの紙上を通じて深くお詫び申し上げる次第である。この様な理由で民はくの比重は非常に重大性を増しているので、今の後全町民各位の総力をあげて御支援を期待すること誠に切なるものがある。

その他の準備

国体は県民の意気を高める最大の行事であるだけに単なる事務的な準備が完了してそれでよしとするものではない。すべて人が真心に通じ温かい息吹を伴わなければ誠に柴気ない思いがする。もとよりその準備の段階においては高校大会に倍する規模を要求されることになるし、既に県内各会場地においては昨年より商々とその実施を見ている現状である。当町も遅ればせながら国体実行委員会の発足を見て十ヵ月後に迫つた国体に対処すべくこれから万般の活動に入るわけであるが、その準備の一つ／＼のどれをとつても全町民の温かい御支援がなければ到底やりおせるものではない。

しかし何回もくり返すように高校大会を通じて得た体験を下に懸命な努力を誓うものであるが願わくば全町民の各位におかれても高校大会当時の盛り上つた愛町心を再現して秋田国体における五城目町の真價を高揚するよう多分の御支援を期待するものである。

国体実行委員会の構成

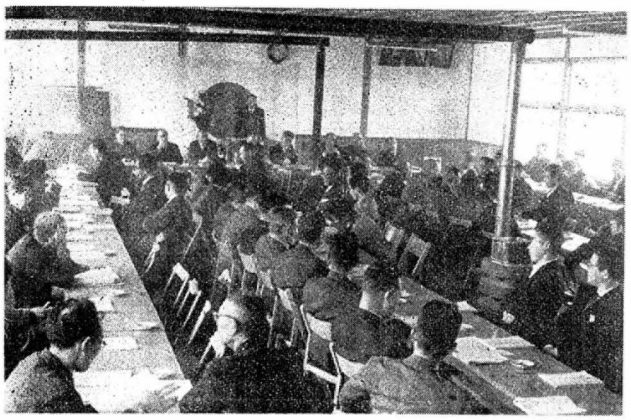
会長　五城目町長　加賀谷力司
副〃　県アマレス協会長小玉正己
〃議　長　木村喜太郎
〃教育委員長貝瑳左工門
〃助　役　小林源四郎
〃五島産業会長　北嶋ヒサ
〃顧　問　県議会議員　栗山藏之助　外十一名
参与　副議長　佐藤邦彦　外六十八名
監事　議　員　小熊健治　外二名
委員　助　役　伊藤卓治　外百九名
事務局長　教育長　小林富藏

常任委員に直接関係者四十七氏を任命

常任委員は委員総会から委任された事項や本会の実際運営などの事項を審議する機関である。これは大会に直接関係ある機関の長やレスリング協会、役場などから四十七名を選任した。

国体事務局の機構

1、総務部
　企画係
　庶務係
　式典係
2、財務部
　予算係
　会計係
3、演技部
　競技係
　用具係
4、施設部
　施設係
　設備係
5、衛生部
　食糧係
　衛生係
　救護係
6、輸送交通部
　輸送係
　交通係
7、広報部
　報道係
　宣伝係
8、宿はく接伴部
　宿泊係
　観光係
　はく接係
　接伴係
9、経理部
　経理係
　用度係
10、警備証借部
　警備係
　交通係
　防犯係
　通信係
11、県民運動推進部――県民運動係
12、特別接伴部――貴賓接伴係



（写真）　関係者200名参集の国体五城目町実行委員会総会

村づくり青年研修

養豚講習会に参加して

富津内農協青年部　阿部　昭

去る十二月五日から十一日まで、神宮寺の県畜産講習所において開催された、県主催農山漁村青年研修養豚講習会に、私達富津内農協青年部員一行六名が大量参加し、研修を終了して参りました。

昨今農業経営の改善とか、所得倍増論、これにともなう農業人口削減など、吾々の身近な問題が国会討論の議題となり、県町村当局者に於いても、同じような討議研究をされて居ることと思います。

まさに曲り角に立つ農政問題が世の注視を一身に集めて居る言つても過言でないと思います。此の時にあたり講習会に参加し得た私達にとつて、今後の農業経営のため大変強処になりました。本講習会に推せんし、参加のチャンスを与えてくれた村青年研修養豚講習会に、私達富津内農協青年部員一行六名が一週間の講習を通じ、私達の農業経営を根本から考えなおしてみなければならない段階に来て居ることを痛感して参りました。

講習生のなかには共同飼育を行つて居る金浦町の人、秋田市下新城の人なども居り、前者は沿岸漁業の不振打破のため、又後者は米単作の是正と新らしい農業経営にふみきつて居るのが目立ち、果樹草生地利用の共同養豚者であり、又近くでは八郎潟町真坂養豚部の野菜利用の養豚など、県北八幡平村の酪農と養豚との経済格差の研究をやるため参加した青年もあり、自然講義にも熱が入り、講師と講習生の呼吸がマッチし効果があり計画を立てて居り、養トンもそ一つとして大きく取上げて話合いを進めて居りますが、私達もこれら調をあわせてがんばり、経営の改善を計るべく話合つて居ります。

五城目町の発展も、農業の発展なくして達成出来るものでないと思い、農民皆まずして、一般町民も又富まずと思う。

米作りに限界のきた農業をどの方向に進めるべきかは、農民各自の意志によるけれど、私は養畜こそ米作りに変る収入源となることを信ずる。

上部の政治機関の力もさることながら、町当局、農協、農民一体となり、他産業におくれをとらぬよう、協力して農業経営の根本的改善のため養トンいな養畜を推し進めて行くべきでないかと思う。

五城目町の発展も、農業の発展なくして達成出来るものでないと思う。

このたび私達の農協も養畜を もつて、稲一本の農業経営、農協経営より脱脚したいと、目下計画を立てて居り、養トンもそ一つとして大きく取上げて話合いを進めて居りますが、私達もこれら調をあわせてがんばり、経営の改善を計るべく話合つて居ります。

五城目町の発展も、農業の発展なくして達成出来るものでないと思い、農民皆まずして、一般町民も又富まずと思う。

米作りに限界のきた農業をどの方向に進めるべきかは、農民各自の意志によるけれど、私は養畜こそ米作りに変る収入源となることを信ずる。

上部の政治機関の力もさることながら、町当局、農協、農民一体となり、他産業におくれをとらぬよう、協力して農業経営の根本的改善のため養トンいな養畜を推し進めて行くべきでないかと思う。

町の若返りは派ばつ解消から

「ケネディ」座談会開く

◇アメリカの次期大統領として若冠四十四才のケネディ氏が見事に栄冠を獲得して、全世界の注目を一身に集めました。そこで当町内のケネディ氏と同年の方々にお集りをいただいて「ケネディ座談会」を去る十二月十九日、中央公民館で催しました。

当日の出席者

加賀谷町長（司会）　大森　徳治…公務員　馬場目
小森礼太郎…会社員　五城目　久保市セナ…商　業　五城目
畠山　豊…議　員　富津内　藤原　フミ…主　婦　〃
原田　直治…農　業　〃　斉藤　忠一…農　業　馬場目
松橋正之助…農　業　内　川　佐藤由太郎…〃　〃
千貝　兵蔵…会社員　五城目　松橋鉄之助…公務員　内　川

ケネディが次期大統領に当選して何を感じたか

町長―皆さんはそれぞれケネディの同級生で、まことに意気颯爽たるものが見受けられます。まず皆さんはケネディが当選されてどう感じましたか。

B―ケネディは米国の歴代大統領の中で一番若い。それでアメリカの政治が非常に若返るのではないか。

A―ケネディそのものゝアウトラインをつかまえてないが、若いケネディを戴いたアメリカを、五城目町も大いに勉強したいものです。

町長―ケネディの当選は未知数ながら若さを買われたもので又一方テレビ討論で勝ったといってもよい。今の時代はアメリカといわず日本といわず新しい着想を必要としていると思う。その点からいっても四十代の人はもっと自信をもってもよい。

C―ケネディは非常に女性に人気があった。（笑）これなどもケネディの未知数に魅力をもったのではないか。

A―若いケネディということから考えて、五城目町も合併はしたがまだ古くささから抜けていないと思う。町長も若いこれから若返ることが必要だ。

D―五城目町の古くささは立地条件が悪いからだと思う。

C―古いからを破れないでいるその代り平和であり堅実な面もあるが時代に副えない点はたしかだ。

B―町長さんがサーモエレメント工業を町に誘致して大いに産業の改革を図っている。このように外部的なものを入れることが是非必要だ。

F―あゝいう事業が入ってこない限り五城目町の大きな若返りは望めない。

〔写真〕　正面町長、小森の両氏

五城目町の古くささは何が原因になっているか

町長―町が古いという御意見があるが、何が障害になっているかお話し合いたい。

A―新五城目町になってもこの中で地域的なへだたりがあって何事にも人に遠慮する。積極性を欠く風が見受けられる今の若い人にもある。

町長―考えていることを素直に発言できないとか。

C…発言ばかりでなく自分もよければ人もよいことをはっきりやれない風がある。ことに旧町に多いと思う。

町長―旧町だけとは思えない。前に衆議院選挙があったが、この事実がよいとか悪いとかでなく、あの人が支持するからおれは反対するという派閥感情が残っているのではないか。合併して行政組織が大きくなったからには、そういうことも無くしなければならないしその可能性もある。これなども古いといわれる一つと考えられる。これを早く無くしないと五城目は古いと比較される。

B―全く五城目だけがとり残される感じがする。若い人はこの旧弊をどしどし破ってもらいたい。

D―各町内や部落に見受ける派閥は是非無くしたい。私の地区も派閥の強いところだが、（笑）やはり若い人の力で無くしたい。

町長―若い人は思想的にも精神的にも白紙状態だが年をとるとすでに染まっている。つまり派閥でかたまっている人たちが所有権を支配していて、そこに実際的になし得ない現実がある。その点染まっていない若い人に希望がもてる。

A―町が古いからを破れないことも相当年輩の人の力が若い人の力よりも強く、染っていない人がぐいぐい引張られてしまう。そのため青年会とか婦人会とかも活動がにぶっている感じがする。

G―青年会など以前の活発さが見られない。

E―婦人会のほかに若妻会などもあるが活発でない。

C―その地域で誰か一人真剣にやる人が必要だ。

H―私は始終山に入っているが一諸にいる人でも男鹿や金足など外からきた人の方が町の人よりしっかりしている。

D―派閥も最近はいくらか薄れてきた感じがする。この間の衆議院の選挙でも必ずしも頼まれたとおりでなく自主的に書くようになったと思う。これからは何の選挙でも今までとは違ってくると思う。

町長―そうなるべきです。

C―これからの五城目町の選挙も啓蒙して除々に良くしてゆくべきだと思う。大きい選挙はさほどでないが、今年の町長選挙のように身近な選挙だとまた思いやられる。（笑）

町長―そういう意味では町議選挙を大選挙区制にしたことは自分がケネディであつたらよかつたと思う。

D―たしかによかつた。

〔写真〕左から畠山、原田、松橋（正）、千貝の各氏

〔写真〕松橋（鉄）、佐藤、斉藤、藤原、久保市、大森の各氏

自分がケネディであつたら

町長―皆さんがケネディであつたらまづ第一に何をやるか。

Cさんからひとつ。

C―同年という感じからかケネディを鏡の上の人とは考えられない。だが実際国の最高の地位についてやってゆくことは容易でないと思う。五城目の町にたとえても派閥を解消しなければ、町の若返りということは実際出来ない。これが一番問題だと思う。

町長―解消させる方法は。

C―その具体的なといわれればまだケネディになってないのでどうも。（笑）

I―女―家にいればふけて仕舞いますが、同じ年のケネディが若いといわれるので、これから若くなった気持でやりたい。

D―私は和製ケネディ、つまり五城目のケネディになったつもりで、（笑）まず在部も公平な取扱いをする。例えば幼稚園でも五城目にはあるが在にはない。また道路でも町はすでに舗装されているが在の方は極端に悪い。それから農業振興の問題でも充分目を注ぐ必要がある。病害虫対策なども名目的にはあるがもう少し引上げる必要がある。

F―道路のことが出ましたが、五城目駅前もまことに悪い、早く改修する必要がある。

E―私も道路問題を取り上げたい。田町の場合でも中学校に通ずる到用度の高い道路であるが突にせまくて悪い。

町長―道路の事について説明しますが、駅前は今年度舗装を予算化しているまた来年度予定されているところは、五城目～一日市間、秋田大館線、国道では大川、そのほか国体があるので来年はかなり舗装が進む積りです。

G―私は町会の議場があまりに混乱していると思うのでこれを改革したい。

町長―畠山さん、議会の人としてそう感じますか。

畠山―そうは思いたくないが、町民にそういう風に見られる点はどこかにあるのでないか。

町長―議会には三つの会派があるが、議会内部の調整をするのに難儀な場合が多い。この問題についてひとつ。

C―同じ会派であっても必ずしも同一歩調で進めなければ思う会派については疑問をもっている。

D―同感である。会派を無くして平等な立場でやるべきではないかと思う。何のグループでも同じだが自分の意志を犠牲にして同調する場合もありうるのでないか。

D―議会がいつ開かれ、何を審議するかを知らせてほしい。

町民がつとめて傍聴できるよう誘導すべきである。

G―議会の時間の不励行もひどい。もつと直すべきだ。

国体をよりよく終らせるためには

よくする必要がある。

F―町内の各商店に客扱い、親切など啓蒙する必要がある。

町長―時間も大分たちましたので、私達も四十四才の大統領が生れて非常に眉身が広くそして若くなった気持です。こういう気分で更に心機一転して地域のためにがんばりたいと思います。今日は良い御意見を多く御発表いただいてありがとうございました。

1960年 町の十大ニュース決る

鳴りわたる除夜の鐘とともに1961年の新しい年を迎えましたが、わが町の一年をふり返ってみれば、そこには数々の町のできごとが思い出されます。

この中から1960年の町の十大ニュースを決めるため、先に一般募集をしたところ、たくさんの應募があったので去る12月23日役場内で審査会を開き、厳選した結果つぎのとおり決定しました。

1960年、町の十大ニュース

① 第一回全町体育祭開く。
② 町民歌及び新五城目音頭決る。
③ 山林野ネズミの被害甚大、ヘリコプターによる空中駆除。
④ 森山の「すず虫」天然記念物に指定される。
⑤ 町議会及び農業委員の改選。
⑥ 都市計画街路山ノ手線の着工。
⑦ 大相撲東町、若駒優勝後援会結成される。
⑧ 五城目幼稚園独立園舎竣工す。
⑨ 第一中学校管理棟竣工、記念碑建つ。
⑩ 奈良時代のマガ玉、太刀、岩野山から発掘。

なお、入賞者は次のとおり

1位　舘岡　満（高崎）　2位　佐々木晴雄（岡本）
3位　京野孝之助（高崎）

公民館だより

社教会活動今年の課題（1）
国体対策と地区公民館充実の年

はじめ

中央公民館が発足して以来二年になるが、中央公民館は本町社会教育のセンターとして、また町民の茶の間として磨々その成果をあげつつある。

本町社会教育の今日の体制というものは、中央公民館の設置してからであるといってもいさか過言にはならないであろう町村合併以前はそれぞれの地域においてその地域の特性をもつた活動が活発になされたのであるが、真に住民の躍欲をひきたたせる活動までは高まっていなつた感もあった。

青空でもいいから町村に公民館をということは終戦後早々のかけ声であった。

これは時節がらまことに当を得た呼びかけであったが、今となるとこの名文句がかなり足手まといになり、いわば座名句となりかねな状態となった。

いやしくも教育施設である以上社会情勢の推移変せんや、住民の要望に応じうる活動を行うだけの施設設備を整備した公民館でなければならない。こうした背景の中から、昨年一年間の本町の社会教育活動をふりかえりながら昭和三十六年の課題を設定しようとするものである。

一、公民館

中央公民館はちくじ施設設備が整えられてきており他の公民館と比較するとき、決しておとってはおらないが、一〇〇人以上の集会はとうてい無理な状態である。

毎日のように会場が提供、利用されており、それだけでも十分な機能をはたしているといえるが、ただそれだけにとどまらずその集会がより効果的なすすめ方が出来るような育成指導が望まれるところである。

現在定期的に公民館を利用している団体は五城目地区労、五城目製材連絡協議会、五城目演劇同好会、五城目婦人会文化部のほか、毎週土曜日には生花教室が開かれている。

このように連日にわたつて利用度が高まるにつれて小グループの会合だけにとどまらず、全町的な催しには前に記したように一〇〇人以上の集会が出来るような会場がぜひ欲しいものである。地区公民館にあつては大馬場公民館、馬場目公民館が内部改装をなし、その他の公民館も少しづつながら備品を取り入れているが、まだまだ十分とはいえず、今年はまず地区公民館の充実がなされなければならない部落公民館も高千分館、西野分館、幸庭分館が新築したのをはじめ、昨年暮れには森山公民館が新築され、岩野分館が改築されるなど、これはひとい部落住民の熱意によつてなされたものであり、今年はこうした動きが一層高まり本町社会教育が地域まで浸透できるように、パイプの役目となつてくれることを期待したい。

設備備品の利用も視聴覚器材の利用がさかんになつて来ており今後とも新しい啓蒙宣伝活動の一要素としてその役割は大きなウエートを占めつつある。

文庫についても年々新刊書を取り揃えて来ているが図書の活用されている率からしてそのほとんどが現代小説であり、予算の額増をはかつて、辞書、専門書、全集ものも揃えるようにしたいものである。

つぎに今年の事業のとりくみであるが、いうまでもなく、本年十月八日から国民体育大会のレスリング会場となる本町として、社会教育面からしても、これには積極的な取りくみがなされる。

待望の国体実行委員会の設置を見、今年は事務局機構の拡充が早々になされると思うが、これと平行して社教関あげてこれに注入する意気ごみが要求される。

「親切」「明朗」「健康」をあいじるしとして、その一つ一つに具体的な形となつて表われることが必要である。

明るい町民性の育成が国体を契機として今後の町づくりの上にきわめて大きな変化を見せるであろう。

こうした国体開催を頂点とした綜合社会教育計画の樹立が必要である。

パイプの機能を充分にはたすために、地区公民館に専任の職員の配置も課題であるが、今年はどうにかしてその素地をつくるような体制が急がれる。

今年はいよいよ公民館の設置および運営に関する基準が県から示されることになる。

この基準設定の趣旨は公民館の水準向上のための指導基準をなすもので公民館の対象区域や施設、設備、職員など全般にわたつて基準が示されるようになるわけであり、すでに文部省からは国の基準が示されているので、これらの線に添つた本町の公民館体制の拡充が急がれるところとなるであろう。

専任職員の増員も必要であり又懸案の指導体制の強化も町の講師団の編成をぜひ行なわれなければならない。

山の相は人の相に通ずる。上に向う力と下に向う重力の二つの力の合流が面や立体の交錯をあらわし，峨々とそび立っている山には風雪に耐えた人間の荘厳な相があり、長く据を引いたやさしいりよう線の山には寛容な人の相がある。

森山の三高地は、このどちらでもなく豊かな調和の立体感をもち静かに沈黙した人間相である絃をゆるく張ったように二高地へつづくりよう線に、きれいに間隔をおいた松並木は、すず虫が奏でる音符のように高く低く、強く弱く点在し、あたかもこの森山の詩情につつまれた豊かな町民性を物語っているかのようである。

二、社会体育

県国体事務局の県民運動推進部長丸ノ内久先生が昨年五城目に来ていつたことばに「五城目はポケット的存在である」というのがある。

いろいろと問題を含んでいる言葉にせよ現在の五城目の形態を表現した言葉だと思う。

これは四方が山にかこまれ、鉄道沿線から離れている五城目をポケット的存在と称したものであるが、これは地形上のことであつて、内的に埋没しているとは考えられない。

しかしそのようになりうる危ぐのあることを指摘した言葉であろう。

昨年の本町のスポーツ界をかえりみると多彩な年であつた内にあつては全町体育祭の充実ぶりは本町スポーツ史に特筆すべき行事であつたし、スポーツ熱は野球、卓球、バレーなどあらゆる種目に町民が参加してきており、二万町民がそくスポーツ人口であるという方向をすすめてまいらなければならない。

外的には全県男鹿駅伝二位、十和田八幡平全国駅伝十位、全県青年体育祭二位を手はじめとして個人では全国的な活躍をなしたものも数多くいる。さらに今年は家庭、職場にもつともつとスポーツが取り入れられるようにすることが課題となるのではないか。

体育指導委員会と体育協会の活動は年を追うごとに必要かつべかざる存在となつてきておりここでも指導スタッフの強化が今以上に急がなければならない

特に本町としては大切なことは全県的なスポーツ行事を年一度の開催するような仕きかけが絶対に必要であり社会体育関係者の課題として提起しておきたい今年は国体というまたとない時期到来でもあり、本町のスポーツを結実させる絶好のチャンスであり、スポーツ、バツチテストも町民が多数参加されるように配慮されなければならない。

最後に県内で活躍している本町出身の選手が職場の関係などでほとんど五城目町から出場出来ないことは誠に残念である。

今年学窓を巣立つ有望運動選手にも本町に在住するような方法はないものであろうか。

三、青年会（学級）

青年会活動もちかごろは〝曲り角〟にあるとさかんにいわれている。

たしかに一つの転機につきあたっていることはたしかであるこの不振についてはいろいろ取沙汰されているが根本的には、農村経済の変化があげられようと思う。

六年連続豊作とか所得の倍増など「日の丸景気」をうたわれながら、文化水準の高揚と機械化によつても所得はかならずしもあがつてはいない。こうした条件の中で青年の生活には変化を見せてきている。季節出稼者の多くなつたことなど、その証拠となる一点である。仲間たちがどんどん村から離れていくときのこされた青年にとつてはたしかに心さびしいものになるにちがいない。

しかしこうした変化はあるにしても底辺活動まで停滞してしまうということにはもつと現実的な欠陥が指摘されなければならない。その欠陥とは青年活動家の不足と熱意の欠除である。きわめて朴な理由になるのであるが、こうした社会的はい景もここで論及するのが当然であるが、地域には同じような条件につきあたりながらもさまざまな障害をのりこえて活動が高まつているところもあるのである。

学習活動も本当に地についたところまでいつていないし、なによりも青年学級の指導体制が確立していないことが致命的である。

しかし活動家たちがもつと地域の問題と取り組む勇気をもち仲間づくりを通じて対決していく連帯意識の自覚を熱望したい。

不幸なことに、昨年の幕になつて杉沢青年会が解散したという事実は関係者にとつて大きなショックとなつた。

ここまでにたち至つた原因は色々あつたと思うが、その事態を事前に探知できなかつた公民かん側の責務もさることながら一遍千里に解散を表明したことは残念というほかはない。

一日もはやくもとに復して活動できるように対策が必要である。青年会だけに通ずることではないが、事務局機構が強力に整備され、活動家が会活動の中心となつて欲しいものである。

青年会の当面の役割としては「働く青年の生存権を守りそれを発展させるよう集団（仲間づくり）を通じてその生活を高め、働く者としての生きる力や連帯感を育てあう場所である」ことをこの時にあたりはつきりたしかめあつて、前むきの姿勢でとりくんでいく意欲こそ今年の課題である。（婦人会、視聴覚教育、文化財、新生活運動などについては次号に掲載の予定である）

記念講演に丸の内 久氏
成人式要項一部変る

一月十五日におこなわれる成人式の要項はすでに発表ずみでありますが、記念講演に予定されていました小畑知恵は都合によりおいで出来なくなり、変つて県民運動推進部長の丸の内久氏に決定いたしました。

丸の内久氏は県の国体事務局にあつて、本年の秋田国体の開催にあたつて県民総参加運動の推進をなさつている方であり、一方農業問題をはじめ、社会的見識と話題豊富さは県内でも有数といわれている。

なお芸能公演も予定の「わらび座」にかわつて「町民の歌」の発表や、五城目演劇同好会員による演劇発表がおこなわれる変更なつた詳細は次のとおりであります。

記念行事

1講演「成人に期待するもの」講師県民運動推進部長丸の内氏

2芸能公演

イ　町民の歌、新五城目音頭発表

ロ　五城目小学校音楽クラブ　五城目青年会合唱部員

ハ　新五城目音頭舞踊発表　五城目婦人会文化部員演劇発表

ニ　五城目演劇同好会　ブラスバンド演奏

五城目第一中学校生徒　五城目高等学校生徒

その他来賓、成人、保護者の出席申込みは一月五日（木）までかならず中央公民館へお届けくださるようおねがいいたします

NHKのど自慢中央地区予選

恒例のNHKのど自慢全国コンクール秋田県中央地区予選は来る一月二十九日（日）五城目小学校において開催することにこのほど決まつた。